

令和5年11月

荘内小保護者のみなさんへ

中学校区一貫教育校園
玉野市立荘内中学校
校長 住田 義広

荘内中学校の学校教育活動について

日頃より本校教育の推進についてご支援いただき感謝申し上げます。

本校では未来の学校づくりを推進し、これからの予測困難な社会の中で強く生きていくための力を育成するため、生徒を主役にした教育改革を進めています。生徒が未来を見つめ、主体的に各種活動及び学習に取り組んでいくよう邁進したいと考えておりますので、一層の御支援よろしく願いいたします。つきましては、主な教育活動についてお伝えいたします。

1 校則を生徒会会員規則に移行した取組について

全国的にブラック校則というキーワードで問題視されている校則問題について、本校では令和3年度に生徒会からの要望を受け、大幅に改訂いたしました。令和4年度の3学期に現生徒会から、自分たちの生活ルールを自分たちで管理運営したいという要望があり、教職員で検討した結果、校則を生徒会に譲渡しております。

(1) **生徒会会員規則であってもルールとして存在しますので、教職員は変わらず指導します。**

「みんなで決めたルールだから、みんなのためにも守っていこう」という指導となります。

(2) 毎年、生徒総会等において全校生徒でルールメイキングについて話し合います。

(3) 自動販売機の正しい使い方や金銭管理意識の向上について、また、クロームブックの適切な使用・破損防止等について、教職員からも生徒会からも働きかけていきます。

学校から押し付けられたルールを問答無用で守るのではなく、生徒の一員として自分たちのルールを守るという意識で生活してほしいと願っています。

現時点でも一部数名の生徒が服装等のルールを守れていませんが、服装については、保護者の教育方針によることが大きいので、お子様の将来を考えた家庭教育の在り方を検討願います。

2 全教職員総がかりで行う生徒の指導支援について

本校でも様々な課題のある生徒や悩みを抱える生徒が在籍しており、また、いじめにつながる事案も起きることがあります。その都度しっかりと指導をしておりますが、生徒や保護者の方の価値観の多様化も進む時代、教職員の課題を察知するアンテナはさらに高くならなければならないと考えています。そこで、次のような体制を整えました。

(1) 学年団全員の目で生徒たちを見ていくために、給食時間や帰りの会、道徳・学活の授業は、学年団でローテーションして実践していきます。(学年担任制)

(2) 問題等が発生した場合に、教員はチームで対応します。

(3) 小さな事案やトラブルもこれまで以上にすべて管理職に報告します。

※ただし、学校の教職員には捜査権はありませんので、SNSのトラブル等、明確にすることが困難な事案もあります。その際には、警察にご相談いただく等、ご検討お願いいたします。

3 効果的な人間力育成の新たな取組について

(1) ENAGEED 社の人材育成教材の導入

「一人ひとりの生徒が自分の可能性を理解し生き方に誇りを持つ大人になるために」をコンセプトに全国の多くの中学校・高等学校に導入されている教材です。年間をとおして実施します。

※右のQRで教材紹介HPがご覧になれます。



(2) 各種トレーニングタイムを年間をとおして実施

これからの社会で必要な能力をトレーニングする時間を計画的に実施します。

①「こみゅトレ」：コミュニケーション・トレーニングを行います。

②「まなトレ」：学び方をトレーニングしていきます。

③「ねっトレ」：情報モラル教育やネットリテラシー等をトレーニングします。

(3) 総合的な学習の時間で3年間をとおした探求学習をさらに充実させ、プレゼン集会等のアウトプット活動を深化させていきます。(プレゼン力の育成は未来を生きる力として重要)

(4) 校外活動等の学年行事の内容を目標に照らし合わせながら、より人間力育成に必要な取組にしていこう検討していきます。

4 「荘内まなびスタイル」(先行学習を基盤とした協同学習)の充実について

ネット上で様々な学習課題の答えがすぐさま出る時代、アプリさえあれば何でもできる時代の学びとは何か、いろいろ考えた結果、荘内中の学びスタイルを実施しています。予習課題を重視し、授業では学び合い、高め合う学習活動を行うことですべての生徒が参加する授業となるものと考えています。また、現時点では得点力も必要であるため、2か月サイクル学習(学力診断テスト実施)も取り入れています。

(1) 自分の評価評定をアップデートしていくために

①「荘内まなびスタイル」(先行学習を基盤とした協同学習)を推進します。

単元の学数の流れの中では、自由進度学習も取り入れ、学習の自己調整を促進します。

②年間単元学習計画を伝え、単元ゴール(単元末テスト等)を目標に取り組むよう指導します。

③単元末テスト後に一回のみ再チャレンジの機会も設けます。(下方修正もあります。)

④単元ごとに先行学習課題の取組や授業での取組、振り返り課題等の状況で評価していきます。

⑤各学期末までの学習単元を総括して評定を出します。

(2) 自分の得点力をアップデートするために

①2か月程度の期間で年間をとおして「学力診断テスト」を実施し、「2か月サイクル学習」を推進します。

(1年生は4回、2年生は5回、3年生は7回、これに加え国・県の学力調査テストあり)

②学力診断テスト間でチャレンジする内容は次のとおりです。

・結果の分析で弱点を整理し、次回テストまでの学習計画を作成します。特に必要なのは、自分の弱点領域にチャレンジしていくことです。

弱点領域へのチャレンジは、スタディサプリやミライシード、問題集等で取り組みます。

※学力診断テストは、業者が学習水準を担保して作成していますので、(これまでの定期考査は教員が作成するきめられた範囲内のテストであり、得点力の把握はできないものでした。)高校入試時の得点力を図ることに適しています。入学以降、3年生の12月の進路決定までに自分の得点力をアップデートしていく取組を継続させていきたいと考えています。

保護者の方も、得点力については「学力診断テスト」を判断資料としてください。